



## 「預言者を通して語られたこと」(要旨)

聖書箇所：マタイ12:15-21

**【1】 預言者イザヤを通して語られたこと**  
クリスマスを待ち望む第一アドベントを迎えました。クリスマス。それは神が人類の歴史に力強く介入された日。神のひとり子イエス・キリストの誕生によって、古(いにしえ)から約束されてきた神の救いがついに成就した日なのです！

主イエスが生まれるおよそ700年以上前に、救い主の到来を預言したのがイザヤでした。福音書の記者マタイは、その預言の成就について私たちに伝えます。

「これは、預言者イザヤを通して語られたことが成就するためであった。」(マタイ12:17)

### 【2】 神が遣わした「しもべ」

イザヤの預言の記述は続きます。「見よ。わたしが選んだわたしのしもべ、わたしの心が喜ぶ、わたしの愛する者。わたしは彼の上にわたしの霊を授け、彼は異邦人にさばきを告げる。」(12:18)

18節は、主イエスがバプテスマのヨハネから洗礼を受けた際に天から聞こえた声を思い出させる記述です(マタイ1:16-17)。マタイは、イザヤの預言した「わたし(神)のしもべ」の到来が、イエスによって成就したと伝えます。ではその「しもべ」とはどのようなお方なのでしょう。

19節は「彼は言い争わず、叫ばず、通りでその声を聞く者もない」(12:19)と述べます。この「しもべ」は敵対する者を威圧し論破を試みたりはしません。逆に柔和でへりくだったお方だと言います(11:29)。さらに「傷んだ葦を折ることもなく、くすぶる灯芯を消すこともない」(12:20)と続きます。自力ではどうにもならず、特別に助けを必要と

する者に心優しい方だと言うのです。

### 【3】 「しもべ」が世に遣わされた目的

「しもべ」がこの世に遣わされた目的は何であったのでしょうか。それは「異邦人にさばきを告げる」(12:18)ためでした。「異邦人は彼の名に望みをかける」(12:21)と続くことから、ここで言う「さばき」とは、審判というよりも、しいたげられた者にもたらされる「公正」や「正義」の実現であることが伺えます(参考:BDAG)。

主イエスは、疲れた人や重荷を負っている者の人生に介入するために、この世にお生まれになりました。

▶主イエスの「羊飼いのたとえ」(ルカ15:4-7)が示すこと：いなくなった一匹は、羊飼いの特別な介入を必要としていた。

▷あなたは今日(今)、神の介入を必要としておられますか？

